

第六期長期・調整計画策定委員会 傍聴者アンケート

第12回実施分（令和5年4月21日開催） 自由記載欄

【傍聴者 会場5名・オンライン13名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。（傍聴者4名記載）

- ・ふるさと歴史館、確かに駅から遠いですが、西部地域住民としては「この地域は何もかもが遠い」ので、駅からムーバスが走っているのにそれだけじゃダメなのか！？と衝撃を受けました。
- ・小・中学生と幼・保の交流について、幼・保の側にもwin-winになるような利点がないと、小・中学生の自己有用感をあげるために一方的に幼・保を利用するだけになってしまうのでは？ 自然な自由な交流でないと難しい。
- ・各校の「開かれ」評価項目と結果や委員からの指摘など公開して見せてほしいです。自分の地域は、小・中とも「開かれ」が開かれていないので、特に評価が気になります。どう“開いた”つもりになっているのか？
- ・“ポスターセッションの学び”では、私立中学の学びに太刀打ちできないのでは？
- ・職員アンケートについての委員の指摘が的確過ぎて首がもげそうです。
- ・学校評価アンケート結果からのPDCAができていないかと言えば、そうは思えなかった。実際に開かれ委員をやってみて。
- ・公立中学校の魅力は実際に通ってみてあまり感じなかった。子どもの権利的にもまずいことがたくさんあった。
- ・インクルーシブ教育システムから共生社会につながると思えない。少人数学級とインクルーシブ教育がよいのでは？
- ・子どもたちは教えることが好き、動画編集などしている。デジタル化→自由を大切にする。
- ・学校と家庭の間の空間。
- ・困難を抱えている当事者の声の方がリアル？

- ・武蔵野型方式という言葉、市民参加、議員参加、職員参加という発想を、初めて知りました。
- ・外部のコンサルタントに頼らず、自分達でつくっている。
- ・職員の立場で記名式だと意見が言いづらい。
- ・長期化計画をなぜこのような形で行なっているのか、という疑問に関する話。
- ・オンライン意見交換会参加者数が意外に少ないんだなと思いました。
職員の方の意見が全体の1割にも満たなかったという議論が興味深かったです。自分の担当以外のところには意見を言うてはいけないと思っているのではないかというよりは、記名式であることがハードルになっているのだと思います。無記名にしたらどのくらい意見が増えるか、どこかで一度試してみてもいいのではないのでしょうか。

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。（傍聴者3名記載）

- ・資料3-2 340番のテーマは児童館ではなさそう。
- ・教育委員の方々では、元プロ棋士の高橋さん、練馬区にお住まいの岩崎さんの発言が新鮮でした。
- ・傍聴している立場としては、まず、どの資料を見ながら話を進めているのかが分かりづらかったのと、武蔵野方式、という用語が分からなかったことなどで、対話や議論を理解しづらい部分がありました。
- ・どうして、長期計画をこのような形で決めているのか、という問いについて話されているのは、とても良かったと思います。
- ・今後の期待として、自治に力を入れている、という武蔵野方式というものがどんなもので、どんなところに魅力があるのかが、人々に伝われば良いなと思いました。
- ・参考資料に、討議要綱のリンクもあればいいなと思いました。

※文字及び文章はできる限りアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。
また、委員名については削除しています。